日本英語教育史学会 会報

301

2021 年 2 月 8 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人　日本英語教育史学会（代表：江利川春雄）

事務局　〒727-0023　広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel：0824-74-1727　fax：0824-74-0191
e-mail：membership@hiset.jp

会費納入口座（名義人：日本英語教育史学会）
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第281回研究例会報告

2021（令和 3）年 1 月 9 日（土），第 281 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 15 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに，河村和也氏（県立広島大学）が「新制高等学校発足期の入学者選抜における英語の位置付けについて：広島県を例に」というタイトルでお話しされました。続いて。続いて若有保彦氏（秋田大学）による「若林俊輔の英語教育論：後期（東京外国語大学時代）の特徴」の発表が行われました。司会は江利川春雄氏（和歌山大学）でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください（①は河村氏，②は若有氏の発表への感想，③は会全体に対する感想です）。

◇　◇　◇

◆①河村先生が取り上げられていた「英文がどこで区切れるかを指摘する問題」は，高校入試や大学入試などの試験問題として見ることが少なくなったように思います。しかし，高校の教育現場で学習者が英文の構造理解を全くできていないような場面に度々遭遇します。ご発表を聞いていて，このような問題形式も再考する必要があるかもしれないと思いました。

（Koyamamoto）

◆①学力試験導入への全国の動向のなかで広島県の特徴や当時の事情が分かり，勉強になりました。　（insulae flumen）

◆①入試への英語の出題や「受験英語」の問題は，日本人の綺麗事ではない「本音の」英語教育史を語る上で不可欠の課題です。しかし，主な先行研究である『近代日本における「受験」の成立』（2019）はもとより，『受験英語と日本人』（2011）を見ても，戦後の新制高校における英語入試に関してはほとんど記述されていません。その間隙を埋めるべく粘り強く研究を続けておられる河村先生のご努力に敬意を表したいと思います。今回は広島県が対象でしたが，まずは国泰寺高校が単独で英語問題を作成していた事実に驚かされました。その内容は旧制一中のプライド故か高度なレベルで，希望者全員を入学させるといった新制高校発足時の理念との乖離を実感しました。ぜひ論文化され，さらに全国的な動向の解明を続けてください。　（みかん舟）

◆①ご発表の最後にちらっとおっしゃった，「『校史』とは何なのか」という根源的な問いが印象に残っています。時間の関係であまり深く議論されなかった最後のスライドの中心に「学校」がありましたが，その周りにどのような要素やプロセスがくるのか，ぜひ続きを伺いたいと思います。　（Tak）

◆①私は高校入試に英語があることを当たり前として生きてきました。本日のご発表から，広島の高校入試における英語の史実を知るだけでなく，自己の認識の前提も知ることができました。ありがとうございました。また，入試試験への英語導入により混乱したであろう当時の学生の姿と大学入試制度改革による混乱した現代の学生の姿が重なり，「いつの時代も制度に振り回されるのはそこにいる学生である」というお言葉が身に染みました。

（孫工季也）

◆①新制高等学校入試への英語の導入というここしばらく追究を続けておられるテーマによるご発表を伺いましたが，戦後の混乱期・復興期のさなかにあったとは言え，横並びの好きな国民性にも拘わらず，よくこれだけの異なりが生じたものよと思わされます。高等学校の校史なども一定のフォーマットに従ってまとめられているわけではないため，こちらの欲しい情報が必ず得られるということにもなりませんが，地道であっても資料発掘を続けていただいて，やがては全国を俯瞰した調査結果をご発表いただけるものと期待しております。

（Dragon）

◆①地方公務員としての高校教員の所属は広島県なのでしょうね。政令指定都市でない呉市が独自に採用・雇用をしていたとは思えませんから。設置者の移管と教員の所属は必ずしも連動しないのがやっかいなところですね。

（久保野雅史）

◆①新制高等学校発足期の入学者選抜のおける英語の位置付けについては，私自身も以前から大変興味がありましたので，緻密なご研究に多くを学ばせていただきました。新制中学校の教育課程実施状況との関連を問う必要があると感じました。（広川由子）

◆②若林俊輔の英語教育を題材とした研究で，分類の仕方など，勉強になりました。フロアからの質問やコメントも研究の参考になりました。末期の研究がなされ，全体像が明らかになった結果がどのように英語教育の史的研究に還元されるのか楽しみにしています。

（insulae flumen）

◆②「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」を実現するために若林俊輔先生の主張された言語教育は不可欠な要素だと思いました。

（Koyamamoto）

◆②若林俊輔先生は戦後日本英語教育のトップランナーの一人として，本格的な研究が求められている人物です。その若林先生の人と業績について，丹念に論文・資料を集め，著作集を継続的に刊行しつつ，研究発表を続けておられる若有先生の姿勢から大いに学びたいと思います。今回は「後期」ということで，初期・中期との比較が可能になり，特に「方法論」が徐々に減少し，逆に「教育課程・制度論」や「教育史」といったマクロな視点からの論考が増加したという知見に興味を惹かれました。教室レベルでの指導技術を超え，日本の英語教育全体を視野に入れて理不尽な教育政策を闘った若林先生の姿勢の変化が計量的に浮かび上がったと思います。ぜひ論文化はもとより単行本化をも視野に入れ，研究を大成されますことを願っております。（みかん舟）

◆②若林俊輔の英語教育論を時系列に沿って解明する作業がいよいよ後段に入ってきましたが，この東京外国語大学時代に学術論文がないということが意外でした。質疑応答でもありましたが，いわゆる商業誌に発表したものは編集部からテーマを限られて書くものですから，それを総合しても若林の英語教育論を総体として捉えることは難しいかもしれません。ただ，『英語教育ジャーナル』の場合には若林自身が編集主幹として経営した雑誌ですので，これから得られるものは他と一線を画して分析されるとよろしいのではないでしょうか。その意味ではこの雑誌が短命に終わったことが惜しまれます。（Dragon）

◆②若林俊輔先生の英語教育論の全体像，変遷に関する分析は，聞いていて「エキサイティング」でした。このような研究は，（直接の師事や面識の有無にかかわらず）敬愛の念が根底にあるからこそ輝きを放つ側面もあると思いますが，そうであるならば尚のこと，「若林俊輔」という出来事を批判的に，徹底的に突き放す視点が（将来的に）あっても面白いと思います。（Tak）

◆②本日のご発表から若林俊輔という人物の思考の揺れ動き及びその中での一貫性の一面を知ることができました。伝記的研究の意義を私はその人の認識の変遷を明らかにすることだと思っております。若林俊輔という巨匠がなぜそのような発言をその時代にするに至ったのか，何が若林俊輔及び若林俊輔像を作りあげたのか，若有先生の一連の研究を基にこれからさらに理解を深めていきたいと思いました。（孫工季也）

◆②語研の講習会の企画運営に長く関わっていました。若林先生には企画側が「こういったお話をして欲しい」と内容を指定してお願いしていた記憶があります。それは，必ずしもその当時に先生が興味を持たれていたこととは連動しません。雑誌の原稿依頼にも似たような点があるように思っています。（久保野雅史）

◆②ご発表を聞いて，『英語は「教わったように教えるな」』を読み直すきっかけとなりました。小学校英語，教員の負担，少人数学級など，現在，最もさかんに論じられている教育問題がたくさん出ていて，若林先生の鋭いご指摘に改めて感動しました。（広川由子）

◆③本学会もオンライン型に移行して数回が経ちます。遠隔から参加できるという手軽さは有難いのですが，慣れてしまったのか，その有難み以上に先生方に直接お会いできないもどかしさを強く感じます。今年は現場とオンラインのハイブリッド型も導入していただけると何よりです。（孫工季也）

◆③10 年ぶりに静岡の地より参加させていただきました。世界中が大変な状況にある中ですが，一方でオンライン開催の恩恵を実感しております。（Koyamamoto）

◆③会場で配布していた資料と同じようなものを，学会 HP から事前にダウンロードできるようにしてはどうでしょう。印刷したものを手元に置いて発表を伺うと，メモが取りやすいように思います。ご検討下さい。（久保野雅史）

＜発表を終えて＞

河村 和也（県立広島大学准教授）

新制高等学校発足期の入学者選抜の実際について英語を軸に考察する取り組みを始め，気付けば 10 年の歳月が流れていました。自治体ごとに調査を積み重ねる方法を取りましたが，全体像を明らかにできるのはいつになるのかと我がことながら案じているところです。

発表概要で「広島県の学力検査には他県には見られない大きな特徴があった」と記しましたが，それは「高等学校ごとに学力検査の問題を作っていた時期がある」ということです。英語についても複数の学校が出題していたことが確認できており，それらを集めることはできないかと考えていますが，なかなか厳しいところだと思ってもいます。

今回の発表では，新制高等学校発足期の広島県における大きな動きについてもお話ししました。それは，旧制中等学校をほぼそのまま新制高等学校に移行したことに対し軍政部からの指導が入り，わずか 1 年のうちに大がかりな再編成が実施されたということでした。その調査を通じ，学校の「系譜」というものについて考えることができたのは，副次的なことではありますが幸いなことでした。今回も，質疑応答の時間には数々のことをご教示いただき，たいへんありがたく思っています。こ

の場をお借りしてお礼申し上げます。

＜発表を終えて＞

若有 保彦（秋田大学准教授）

今回は若林先生の後期（東京外国語大学時代）の論考を分類した結果を報告させていただきましたが，資料収集の作業で一番苦労したのがこの時期でした。というのも，この時期の先生は英語教育雑誌や英語雑誌以外の雑誌等にも記事を書くようになっていたからです。また英語教育雑誌の中でも教科書出版社が発行している小冊子については，出版社でも資料がきちんと保管されていないこともあり，今でも（実はこの原稿を書いている今日になっても）こちらで収集できなかったものが見つかる（発表後のこの段階では「見つけられてしまった」という表現の方が適切かもしれませんが）状況です。若林先生の論考収集作業は先生が亡くなられた 2002 年から始めましたが，20 年近く経とうとする今になっても終わらない現実を前に，最近はやや焦りに似た気持ちも感じています。とはいえ，例会での質疑応答もそうですが，みなさまに先生に関する資料や情報を提供していただけることで，歩みは遅いのですが着実に一歩ずつ前進もできています。

最後に，本当に大変な状況（今になるとわかるのですがちょうど第 3 波のピークの時期でした）の中，例会を開催くださったことに感謝申し上げます。

例会研究発表へのコメントのお願い

2021 年 1 月 10 日

日本英語教育史学会会長　江利川 春雄

会員の皆様，本年もどうぞよろしくお願いいたします。平素は学会活動にご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて，新型コロナ禍で大変な状況ですが，本学会はオンラインによる研究例会を継続しております。そうした状況下で，研究発表をいただいた皆様，および例会運営を担ってくださっている皆様には深く感謝申し上げます。

こうした困難な状況下での例会活動ですが，最近は研究発表に対するコメントが少なくなっており，会報の編集にも支障を来しております。例会会場で手書きするのではなく，後日メールで送る方式となったこともあり，多忙のあまり送りそびれることが増えたようです。

そこでお願いですが，例会に参加くださった皆様には，短いものでも結構ですので，ぜひ研究発表へのコメントを積極的にお送りいただけないでしょうか。発表者への感謝の気持ちや研究上の示唆を文字にしていただくとともに，例会・学会活動をより活性化するために，なにとぞお力添えをお願い申し上げます。

また，例会や大会への積極的なご参加およびご発表を併せてお願いいたします。

〉〉事務局より

〉〉理事会を開催

第 281 回研究例会に先立ち，1 月 9 日（土）10 時 00 分よりオンラインで 2020 年度第 2 回理事会が開催され，以下の件が話し合われました。

(1) 第 37 回全国大会（大阪大会）について

第 37 回全国大会（大阪大会）を本年 5 月にオンラインで開催することを決め，その概要を検討しました。詳細は 6～7 ページをご覧ください。

(2) 投稿論文の審査結果・学会賞候補について

今年度の審査結果ならびに学会賞の候補について，論文審査委員会より報告を受けました。4 本の投稿のうち，2 本が論文として，1 本が研究ノートして掲載との結果になっています。学会賞の候補となるものはありませんでした。

(3) 著作賞候補について

今年度，推薦はありませんでした。

(4) 次期役員体制について

新型コロナウイルスによる感染症拡大にともない会員総会が開催できなかったことから特例的に会長・副会長の任期を 1 年間延長していましたが，本年 5 月の全国大会の際に会員総会を開催し役員選挙を行うことを確認しました。

(5) 選挙管理委員会の設置について

会長・副会長の選挙については事務局がその管理を担うこととし，6 ページに掲載の通り立候補を受け付けることを決めました。

(6) その他

特になし。

（文責：事務局長）

【公示】次期会長・副会長の選挙について

江利川会長，馬本・田邉両副会長は，昨年 5 月をもって任期満了となるところ，新型コロナウイルスによる感染症拡大にともない会員総会が開催できなかったことから，特例的にその任期が延長されていました。延長期間は本年 5 月をもって終了しますので，次期会長・副会長を第 37 回全国大会の際に開催される会員総会において互選します。

これに先立ち，事務局内に選挙管理委員会を置き立候補を受け付けます。立候補者は，3 月 12 日（金）までに任意の書式をもって郵便，信書便もしくは電子メールで選挙管理委員会までお届けください。

＊立候補の届け先

郵便・信書便の場合：〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地　県立広島大学
河村和也研究室気付　日本英語教育史学会選挙管理委員会

電子メールの場合：　membership@hiset.jp

〉〉会費納入について（お礼とお願い）

会費の納入にご協力くださりありがとうございます。会計年度は 4 月より翌年の 3 月までとなっております。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。未納のみなさまへのご案内は順次お届けしておりますので，引き続きのご協力をお

願い申し上げます。

なお，2年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので，よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

年会費　一般：5,000円／学生：3,000円（学生会員は初年度に限り無料となります）
送金先　【1】①郵便局で払込取扱票をご利用の場合
②ゆうちょ銀行の総合口座よりご送金の場合
→　ゆうちょ銀行［振替口座］00150-3-132873
【2】ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合
→　ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキュウ）店［当座口座］0132873

日本英語教育史学会第37回全国大会（大阪大会）のご案内

先にメールでもご案内しておりますが，第37回全国大会（大阪大会）を下記の通り開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

期　日：2021年5月15日（土）・16日（日）
会　場：Zoomを利用したオンライン開催

大会初日（15日）には，「国際英語」の理念に基づく英語教育の研究・実践で国際的にもご高名な日野信行先生（大阪大学大学院言語文化研究科教授）によるご講演，「『国際英語』教育の研究における歴史的考察の意義」を予定しております。昨年，残念ながら中止となってしまったご講演をこのたび実現できる運びとなりました。

◆ 研究発表について

大会での研究発表を募集いたします。研究発表希望者は，(1) お名前 (2) ご所属 (3) 連絡先メールアドレス (4) 発表題目（仮題でも可としますが，できる限り確定版に近いもの）(5) 大会発表賞への参加の有無を明記のうえ，**3月12日（金）**までに電子メールでお申込みください（担当：榎本）。全国大会では積極的な採択が行われますので，どうぞ奮ってご応募ください。

メール送信先：大会実行委員会　taikai@hiset.jp

・中止となった第36回大会に応募したご発表が未発表の場合，同じ内容での応募が可能です。
・研究発表は，プログラムで割り当てられた時間内に「リアルタイム」で行うものとします（事前に収録した発表動画の再生も可）。発表者入替え・質疑応答を含めて，発表時間は30分です。
・Zoomを利用したリアルタイムでの発表が困難な発表希望者は，大会実行委員にご相談ください。
・研究発表をお申込みの方には，ご発表の内容を1,000字程度にまとめた要旨の作成をお願いいたします（4月9日（金）必着）。

◆ 大会へのご参加について

・大会参加のお申込みは，研究例会と同様，オンラインで受け付けます。お申込みをいただいた皆

様に，Zoom ミーティングの ID とパスコードを事務局から通知します。

・大会参加費は以下の通りです。

【会員】一般：1,000 円　学生：無料　【非会員】一般：500 円　学生：無料

会員の皆様は，大会終了後，年会費をお振込みいただく際に，大会参加費も併せてお振込みください。非会員は事前振込みとし，参加費のお振込みを確認した方に Zoom ミーティングの ID とパスコードを通知いたします。

・大会参加申込み用オンライン・フォームの URL を含む詳細につきましては，メール，および，次号会報にてお知らせいたします。

・大会プログラムにつきましては，次号の会報をお待ちください。なお，昨今の状況に鑑み，懇親会は開催いたしません。

〉〉この先の研究例会・全国大会

新型コロナウイルスの感染状況については，依然として不透明な状況が続いています。移動の制限は解除されたとは言え，対面による会合を催すことは困難と考え，9 月以降，今年度の研究例会については原則として Zoom を用いたオンラインの形態により開催することとします。

◆ 第 282 回研究例会　2021 年　3 月 20 日（土）14 時より

オンラインでの会合には相当の疲労がともないます。Zoom を用いた例会の開催にあたり，通常の研究例会よりも短い発表も可能としました。発表時間は次の 2 種類です。

70分（研究例会発表規程に準ずる）
25分（全国大会発表規程に準ずる）

Zoom を用いるに際し，参加希望者をあらかじめ確定しておく必要があります。以下の手順を踏んでいただくこととなりますのでご承知おきください。

(1) 公式ウェブサイト上に用意される《参加申込フォーム》に必要事項を入力し送信してください。
(2) Zoom ミーティングのリンクやパスワードが記載された事務局からの《電子メール》を受信してください。
(3) 研究例会の当日，定刻になりましたら電子メールに記載されている《リンク》より Zoom ミーティングに入ってください。

インターネットの環境をお持ちでない会員のみなさまにはご参加いただくことがかなわず，まことに心苦しく存じております。現況に鑑み，どうぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

研究例会での発表希望者は，(1) 発表希望月，(2) タイトル，(3) 発表概要（100～200 字程度），(4) 使用予定機器，以上の 4 点を明記の上，発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日（7 月発表希望であれば 4 月 10 日）までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

・紙幅の都合で「日本英語教育史学会「会報」300 号の歩み」は次号の掲載とさせていただきます。

日本英語教育史学会 第 282 回 研究例会

日　　時：　2021 年 3 月 20 日（土）14:00～17:00
オンライン開催：詳細は学会ホームページをご参照ください（http://hiset.jp/）。

研究発表①

「ローマ字表記争論をめぐって ～過去，現在，未来～」

米岡 ジュリ氏（熊本学園大学教授）

【概要】日本語のローマ字表記には，「外国人が作った外国人のため」のヘボン式と「日本人が作った日本人のため」の訓令式がある。公式には訓令式が定められている一方，実際社会はほとんど改定ヘボン式ローマ字を利用している。しかし，現代社会はローマ字のニーズが大きく変わり，21 世紀の子供の多くは，訓令でもヘボンでもなく，いわゆる「ワープロ・ローマ字」を使用する。本研究は，明治初期から引き摺っている「二重人格ローマ字」のルーツと歴史を探った後，新時代にふさわしい「ワープロ・ローマ字」に基づく統一された，合理性のある新形ローマ字を提案する。

1. Round 1　1860-1892 争論のルーツ
2. Round 2　1902-1909 標準式の誕生
3. Round 3　1921-1937 訓令式への道
4. Round 4　1945-1954 SCAP とヘボン式
5. Round 5　1954-現在「二重人格」ローマ字時代
6. 21 世紀のため：新形ローマ字の提案

研究発表②

「広島文理科大学『英語教育』（1936～1947）における英語教育論」

上野 舞斗氏（四天王寺大学助教）・江利川 春雄氏（和歌山大学教授）

【概要】広島文理科大学英語英文学研究室／英語教育研究所編『英語教育』（1936～1947 年，全 40 冊）は，「英語教育」を冠した初の専門誌であり，研究論文，中等学校での実践報告，英語教育時評など，貴重な資料の宝庫である。この「忘れられた英語教育雑誌」の学術的価値と今日的意義を明らかにしたい。

発表では，英語教育の論考に絞り，主要な執筆者，論考のテーマ，特徴的な内容について報告する。そのために総目次を作成し，執筆者や内容ごとに分類し，全体像を量的・質的に把握する。それを踏まえて，掲載頻度の高いテーマおよび英語教育史に関連する論考に焦点を当て，特徴を考察する。

参 加 費：　無料
問 合 せ：　日本英語教育史学会例会担当（reikai@hiset.jp）
◆研究例会はどなたでもご参加いただけます（予約不要）。

EDITOR'S BOX　今シーズンの秋田は近年と違って雪が多く，雪かきに追われています。（若）

© 日本英語教育史学会会報編集部（秋田大学 若有研究室 geppo@hiset.jp）